

救 急 編

1 救急活動概要

当市における救急業務は、昭和39年7月の業務開始以来、社会経済活動の進展に伴い年々その体制が整備され、平成17年10月11日の3市町合併及び白糠町の消防事務委託を受け現在8救急隊を運用し、市民の生命・身体を守る上で必要不可欠な行政サービスとして定着している。

そのような中、救急救命士制度の導入や救急隊員の行う応急処置等の範囲の拡大に伴い、全救急隊に高規格救急車の導入および救急隊員の教育訓練体制の整備を図るなど、救急業務の高度化の拡充に取り組んでいるところである。

今後は、関係機関との連携を強化するとともに、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進し、より一層の救命率の向上を目指す。

救急救命士の育成・・・有資格者数49人

高規格救急自動車の導入状況

平成20年度 西救急隊車更新（H20.12.25 運用開始）

平成17年度 阿寒救急隊（H17.12.15 運用開始）

平成16年度 中央救急隊更新（H16.3.1 運用開始）

平成16年度 音別救急隊（H17.1.20 運用開始）

平成15年度 阿寒湖温泉救急隊（H16.2.1 運用開始）

平成14年度 愛国救急隊（H15.3.5 運用開始）

平成13年度 武佐救急隊（H13.5.24 運用開始）

平成12年度 西救急隊（H13.2.27 運用開始）

平成9年度 白糠救急隊（H10.3.2 運用開始）

平成5年度 中央救急隊（H6.1.19 運用開始）

市民による応急手当普及啓発活動の推進

「応急手当の普及啓発活動の推進に関する要綱」（H19.10.11 施行）

メディカルコントロール体制の構築

釧路・根室圏メディカルコントロール協議会の設立（H15.3.26）

医師による包括的指示下での除細動の実施（H15.8.1 開始）

気管挿管可能な救急救命士8名（内3名は白糠支署）を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備した（H18.8.1 開始）

一般市民が行うAEDを用いた心肺蘇生法の普及に努め、救命率の向上を図った。

救急需要抑制対策として、マスメディア等を活用し、救急車の適正利用をPRした。

（1）年次別救急出動件数及び搬送人員

平成20年の救急出動件数は8,442件、搬送人員7,833人で、前年に比べ出動件数においては166件（1.9%）の減少、搬送人員においては250人（3.1%）の減少で、3年連続して減少した。

これは、管轄区域の住民25.4人に1人が救急車によって搬送され、また、1日平均約23件、62分に1回出動したことになる。搬送人員を男女別にみると男性3,763人（48.0%）、女性4,070人（52.0%）となっている。

救急出動件数及び搬送人員の推移をみると、表1のとおりである。

表1 年次別救急出動状況の推移（過去5ヵ年）

年別 区分	S 39 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年
出動件数	145	7,845	9,168 (521)	8,945 (493)	8,608 (495)	8,442 (487)
搬送人員	129	7,487	8,740 (497)	8,442 (465)	8,083 (468)	7,833 (445)
1日平均件数	1.2	21.5	25.1	24.5	23.6	23.1

昭和39年は7月から業務開始。

()内は白糠支署の出動件数及び搬送人員。

(2) 平成20年中の救急出動状況等

救急出動件数を事故種別ごとにみると、表2のとおり急病が最も多く、次いで転院、一般負傷、交通事故の順となっている。その他統計資料を以下の表に示す。

表2 事故種別救急出動件数の全件数に対する割合

種別 区分	火災	自然 災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他				合計
											転院	医師	資器材	その他	
件数	58	0	10	424	71	50	920	39	156	5,322	1,246	0	0	146	8,442
割合(%)	0.69	0	0.12	5.02	0.84	0.59	10.90	0.46	1.85	63.04	14.76	0	0	1.73	100

表3 月別救急出動状況

月 区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	731	666	717	738	663	640	758	665	700	687	675	802	8,442
搬送人員	681	625	653	685	616	588	718	616	642	632	627	750	7,833

表4 曜日別救急出動状況

曜日 区分	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	合計
日数	52	52	53	53	52	52	52	366
件数	1,176	1,279	1,199	1,214	1,188	1,215	1,171	8,442
1日平均	22.6	24.6	22.6	22.9	22.8	23.4	22.5	23.1

表5 時間別救急出動状況と急病の状況

区分	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	合計
件数	479	367	374	536	907	953	911	827	892	888	741	567	8,442
急病	338	256	259	401	599	536	508	477	521	552	496	379	5,322

表6 年齢別搬送人員状況

区分	新生児	乳幼児	少年	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65歳以上	合計
人数	10	326	253	454	526	549	890	504	4,321	7,833
割合(%)	0.13	4.16	3.23	5.8	6.72	7.01	11.36	6.43	55.16	100

*年齢区分
 新生児 生後28日未満の者
 乳幼児 生後28日以上～7歳未満の者
 少年 7歳以上～18歳未満の者

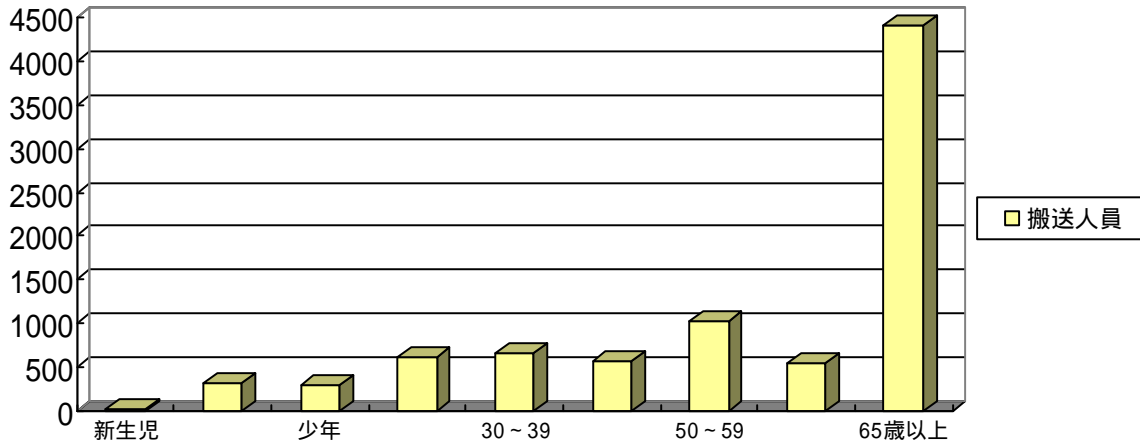
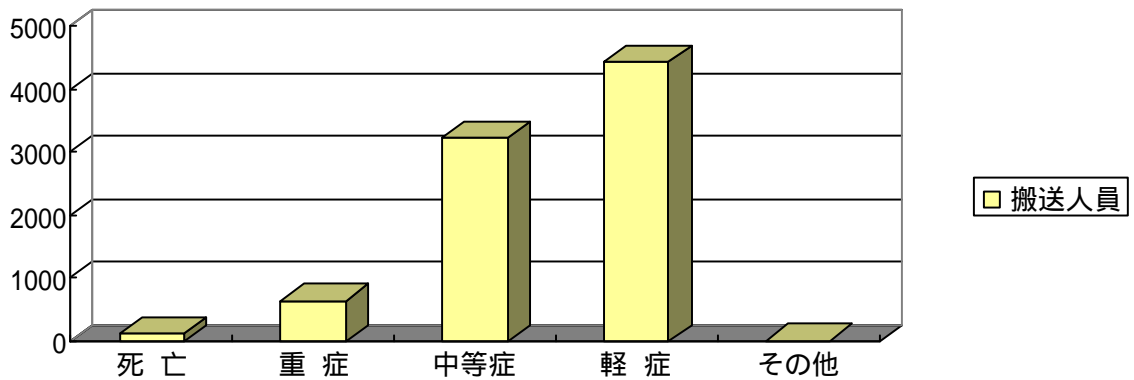


表7 傷病程度別搬送人員状況

程度	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
搬送人員	171	893	3,223	3,536	10	7,833

傷病程度区分
 死亡 初診時に死亡確認したもの
 重症 3週間以上の入院が必要なもの
 中等症 入院が必要で重症に至らないもの
 軽症 入院を必要としないもの



その他 医師の診断が無いもの、医療機関以外へ搬送したもの

表8 救急隊員が行なった応急処置

応急処置	件数	応急処置	件数
止血・被覆	491	聴診	781
固定処置	555	血中酸素飽和度測定	7,237
人工呼吸	34	心電図波形観察	1,531
心肺蘇生	196	器具を用いた気道確保（特定行為）	12
酸素吸入	2,074	静脈路確保（特定行為）	0
気道確保	294	除細動	26
血圧測定	6,381	その他	3,272
在宅療法	24	合計	22,908

表9 救命講習実施状況

区分	対象	対象								合計
		消防職員	消防団員	事業所	町内会	自主防災組織	学校関係	団体グループ	その他	
上級救命講習	回数	2		2					1	5
	人員	6		2					2	10
普通救命講習	回数			56		4	19	11	6	96
	人員			598		34	341	150	7	1,130
一般救急講習	回数			38	3	9	88	25	11	174
	人員			1399	61	314	4837	518	88	7,217
普及員・指導員養成講習	回数	4	1	2			1	1		9
	人員	4	23	13			5	22		67
上級救命再講習	回数	2		1				2	1	6
	人員	9		2				14	7	32
普通救命再講習	回数			30		5	9	5	4	53
	人員			134		44	47	19	20	264
普及員再講習	回数						1	1		2
	人員						1	2		3
合計	回数	8	1	129	3	18	118	45	23	345
	人員	19	23	2,148	61	392	5,231	725	124	8,723

表10 過去5力年の救命講習実施状況の推移

区分	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
実施回数	157	256	272	339	345
受講者数	3,503	4,347	4,271	8,982	8,723